

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

## 教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

### 報 告 書

プログラム名	児童生徒の確かな学力を育てる授業力向上研修モデルカリキュラムの開発 －教員研修と教員養成融合一体型研修の試み－
プログラムの特徴	<p>児童生徒の確かな学力を育てることを目指して、教員の力量を向上させるために、教科の授業力向上を中心とした現職教員対象の教員研修と学部学生等対象の教員養成を融合させた一体型研修モデルカリキュラムを開発する。大学と教育委員会、教育現場との双方向型の教員研修モデルカリキュラムを開発、実施して、さらに、それらを広く敷衍する力量をも形成する。</p> <p>研修内容は、①<u>学習論・実態分析に関する理論研修</u>、②<u>授業力向上に関する実践研修</u>、③<u>学部学生等を対象とした指導研修</u>、の3つを柱とした。特に、③は学部学生等に研修成果を研修を受けた教員が指導することで、受動的な研修から能動的な研修を組み込み、教員研修の成果をより高めることをねらいとしたことが大きな特徴である。</p>

平成22年3月

宮城教育大学 仙台市教育委員会

## プログラムの全体概要

# 児童生徒の確かな学力を育てる 授業力向上研修モデルカリキュラムの開発

—— 教員研修と教員養成融合一体型研修の試み ——



宮城教育大学



仙台市教育委員会

### 大学教授等

学習論・実態分析に関する理論研修

(認知心理学等の理論及び実態分析研修等)

### 指導主事等

授業力向上に関する実践研修

(授業改善プラン構築授業の実践と公開等)

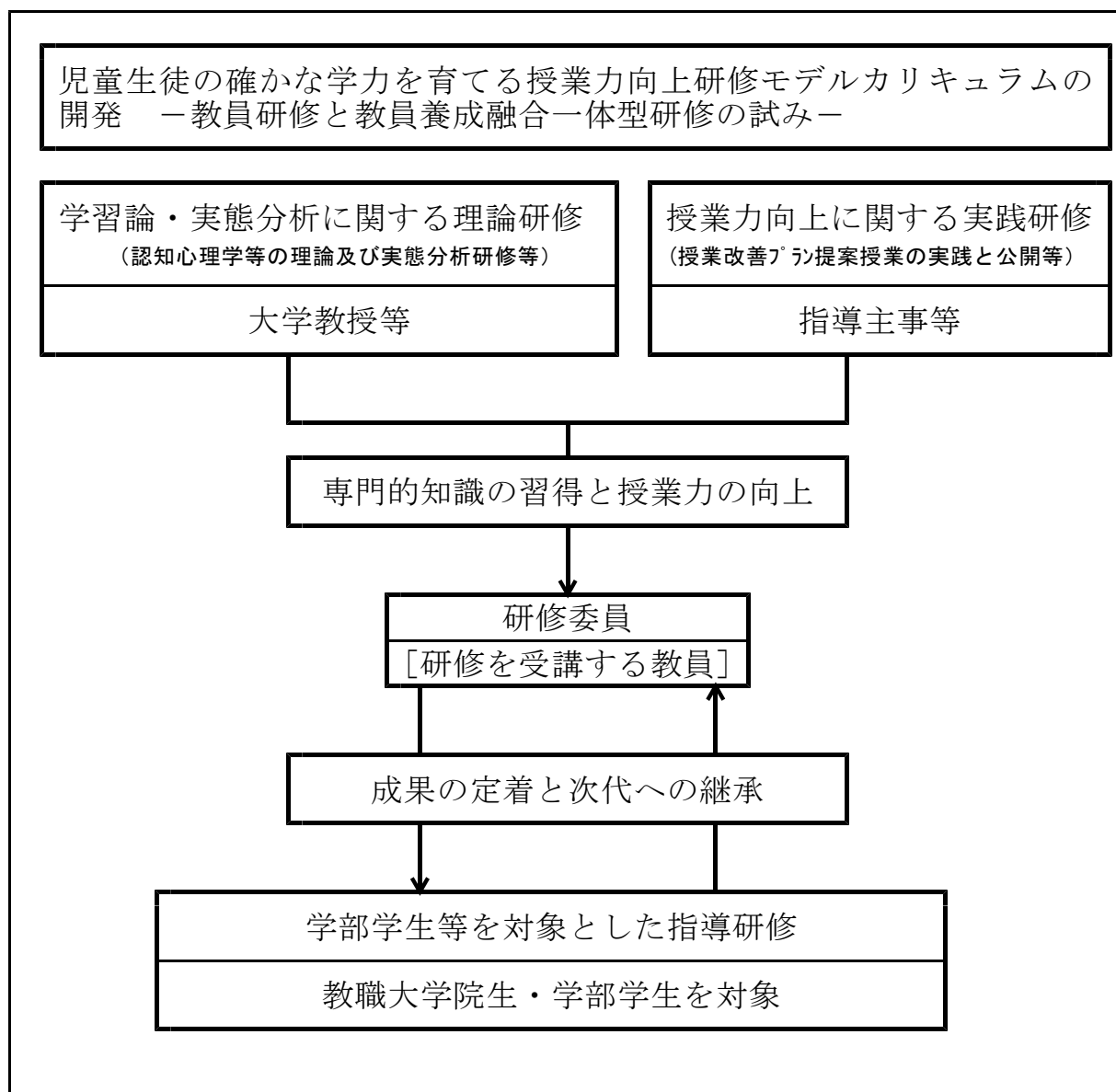


教職大学院院生・学部学生を対象  
**学部学生等を対象とした指導研修**

# I 開発の目的・方法・組織

## 1. 開発目的

近年、児童生徒の学力低下が社会問題として様々な議論が展開されている。子どもたちに確かな学力を育てることは、教育現場における最重要課題のひとつであり、この面での教員の資質向上もまた喫緊の課題である。本学と仙台市教育委員会は、児童生徒に確かな学力を育てるため、教員の力量を高めることを目指し、教科の授業力向上をテーマとした現職教員を対象の教員研修と、その成果を生かした学部学生及び教職大学院生を対象とした教員養成を融合させた教員研修と養成一体型の研修モデルカリキュラムの開発を行うことを目的として、本事業を実施した。対象は、各教科指導のリーダーと期待される教員である。



## 2. 開発の方法

大学の持つ教職及び教科教育の専門性や養成機能と、教育委員会がこれまで培ってきた授業力向上に関する研修機能を融合させ、養成段階の学部学生等と現職教員を対象とした教科指導に関わる養成と研修を併せて行うことで、相乗効果を期待する取組である。

具体的には、授業力向上のためにその基盤となる「学習論・実態分析に関する理論研修」を主に本学が担い、「授業力向上に関する実践研修」の指導案検討や提案授業の実施等を主に教育委員会が担う。双方の成果を教育現場での実践につなげるのみならず、次代を担う「学部学生等に対する指導研修」をカリキュラムの中に体系化し、教員研修と教員養成を融合させた一体型研修を創造する試みである。

## 3. 開発組織

(1) 教員研修モデルカリキュラム開発推進委員会 [以後、「推進委員会」]  
モデルカリキュラム開発全体の総括と評価を担う。開発組織の人員は資料1のとおりである。[資料1参照]

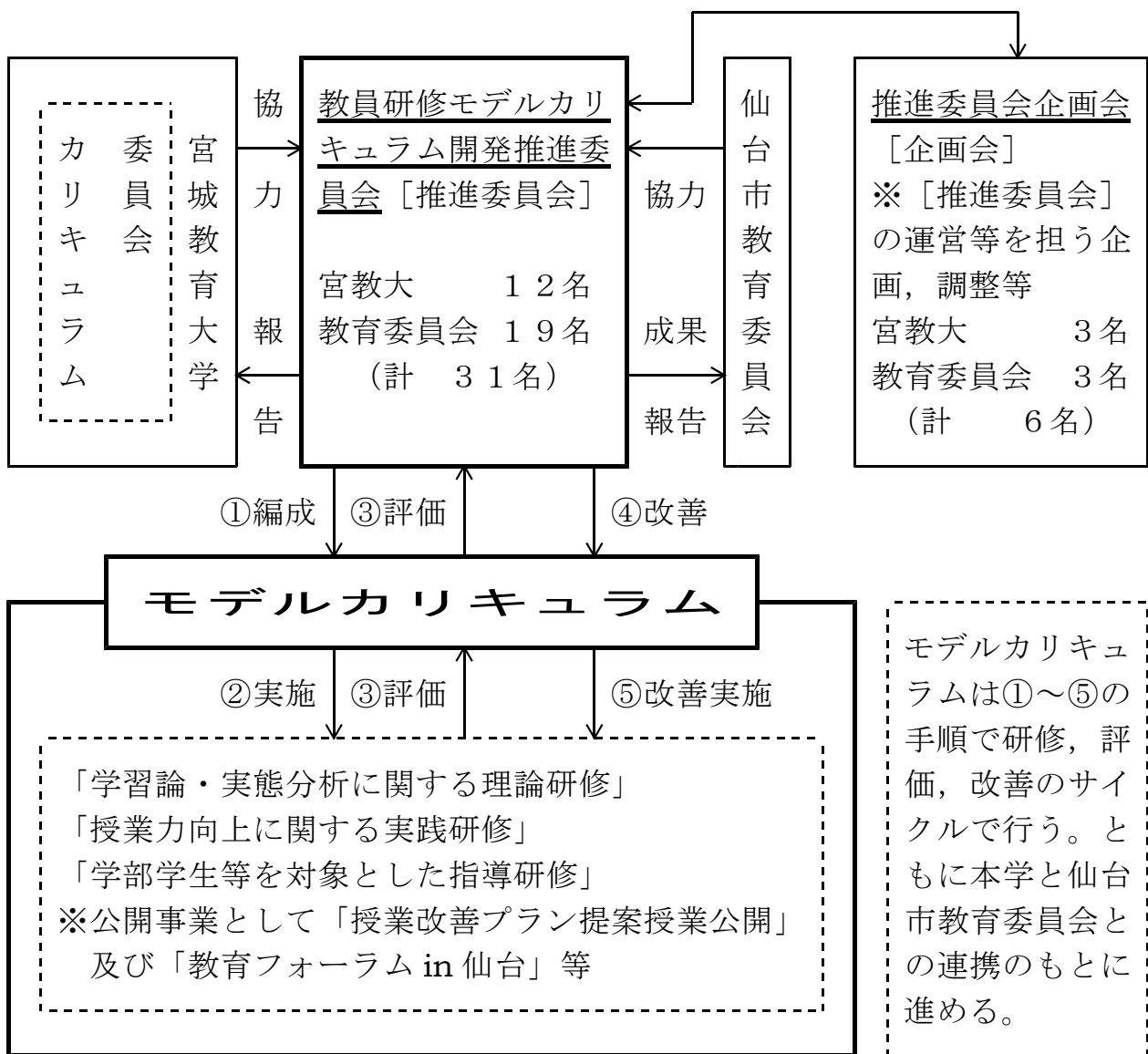
(2) 推進委員会企画会 [以後、「企画会」]  
モデルカリキュラム開発の実施に関わる具体的な検討及び調整を行うものとして下記のとおり組織した（敬称略）。

宮城教育大学	副学長	阿部 芳吉
宮城教育大学教職大学院	准教授	齋藤 嘉則
宮城教育大学	連携主幹	芳賀 茂
仙台市教育委員会	参事兼室長	庄子 修
仙台市教育委員会	主任指導主事	佐藤 淳一
仙台市教育委員会	主任指導主事	明石 清二

(3) 組織の目的

推進委員会の実施する研修やそれに関わる活動を中核としながら、企画会はその推進委員会が十分に機能し、モデルカリキュラムの編成、実施及び改善充実のための連絡や調整を行い所期の目的が十分に達せられるよう機能することが求められた。

また、全体的な活動及び評価の方法については、詳しくは次の図のとおりである。



## II 開発の実際とその成果

本プロジェクトは、46名の各教科指導の中核となることが期待される現職の教員（以後、「研修委員」）に対して、計画に従い練られた充実した内容を、集中して1年間実施することができた。このことは、この1年にわたる研修実施過程はもちろん研修事業終了後においても研究の成果物や学部学生等への指導研修を通して、他の教員のみならず学部学生等への広く大きな波及効果が期待できる。

### 1. 「学習論・実態分析に関する理論研修」

#### (1) 研修の背景やねらい

仙台市が独自に実施している標準学力検査（以後、「仙台市標準学力

検査]の結果から児童生徒の学力状況を正確に把握して適切に分析すること、分析の結果から特に児童生徒が苦手としている学習内容を特定すること、さらに、その指導改善のための背景となる学習論、学習指導要領の基本的な考え方についての理解を深めること、などの内容について研修を行い、確かな学習論や実態分析の知見を習得することをねらいとした。

(2) 対象, 人数, 期間, 会場, 講師

対象：研修委員

人数：46名

期間：平成21年7月1日(水), 8月4日(火), 9月16日(水)  
平成22年1月15日(金)

会場：宮城教育大学及び仙台市教育センター

講師：宮城教育大学教授及び准教授, 指導主事 [資料1]

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課

神山 弘 教育課程企画室長

(3) 研修項目の配置の考え方

仙台市標準学力検査の結果概要把握や、各教科(国語科, 算数科・数学科, 理科, 社会科, 英語科)ごとの分析, 文部科学省が実施した全国学力・学習状況調査結果との比較, さらに, 各教科の学習指導の際の指導観の基盤となる新学習指導要領の理解などを図る必要性があることから4回の研修が計画され実施された。

本学教授及び准教授の指導のもとで, 仙台市標準学力検査の検査問題, 結果に対する考察を行うとともに, また, 仙台市教育委員会指導主事の指導のもとで, 児童生徒の不得手とする学習内容を授業の指導過程にどの様に組み込み, 具体化することができるか, 学習指導の工夫までを深く考察した。

特に, この研修の成果として, その分析結果や学習指導の工夫について小学校は学年ごと, 中学校は教科ごとに「指導改善の手引」として小学校はそれぞれA4版6枚, 中学校はそれぞれA4版4枚にまとめた。

(4) 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数

研修項目	時間数	目的	内容，形態，使用教材，進め方等
理論研修 (実態分析)	約90分	仙台市学力標準 検査結果の概要 把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査結果の概要把握</li> <li>・講義形式</li> <li>・パワーポイント，資料</li> <li>・講師：教育委員会主任指導主事</li> </ul>
理論研修 (実態分析)	90分 ×2回 ～3回	各教科ごとの検 査結果分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごとの検査結果分析</li> <li>・演習，協議形式</li> <li>・資料</li> <li>・講師：大学教員及び指導主事</li> </ul>
理論研修 (学習論)	120分	新学習指導要領 の目指す学習指 導についての理 解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい学習指導における習得・活用・探究の考え方について」</li> <li>・講義形式後に質疑応答</li> <li>・パワーポイント，資料</li> <li>・講師：文部科学省初等中等教育局           神山 弘 教育課程企画室長</li> </ul> ※講演のまとめは [資料2]

(5) 実施上の留意点

研修項目ひとつひとつの目的を明確にして実施することと，学習論・実態分析に関する理論研修であることから，本学教授及び准教授が中心となり，教育委員会指導主事と協力しながら研修を行った。そのため，本学教授等と教育委員会指導主事の事前の打合せを各教科ごとに実施した。

(6) 研修の評価方法，評価結果

実態分析の結果，児童生徒の不得手としている学習内容を特定しその具体の指導改善の方策を考察，創案して図解を中心としたリーフレットにまとめた。小学校は学年ごとに国語科，算数科，社会科，理科をまとめ，中学校は教科ごとにまとめて仙台市内全小学校及び中学校に配布した。教育現場では日常の学習指導に活用され，また，保護者へは「教育フォーラム in 仙台」等で紹介し評価を得ることができた。

## (7) 課題

仙台市標準学力検査結果の分析からその指導改善の具体を考え、その成果物としてリーフレットをまとめ教育現場での活用を考えた。リーフレットにまとめるという研修内容、作業に予想以上の時間を要したことから、今回は今回作成したリーフレットを生かしながら改善していく手立てをとる予定である。

## 2. 「授業力向上に関する実践研修」「学部学生等を対象とした指導研修」

### (1) 研修の背景やねらい

「学習論・実態分析に関する理論研修」で学習論、実態分析を学び、実態分析の結果明らかになった児童生徒の苦手な学習内容をリーフレットにまとめ、具体的に授業の中でどの様に指導するか、各教科ごとに指導案を検討し、プレ授業や提案授業を行うことで研修委員の授業力の向上を目指した。

さらに、その過程において行われた協議や話し合いに学部学生等が参加し、その内容を研修委員が分かり易く説明するなどして、学部学生等にとっては、大学の授業だけでは学び得ない授業の実際を学ぶ機会とするとともに、研修委員にとっては、研修内容を深く内省する機会をもつことをねらいとした。この様に教員研修と教員養成を一体化させることでプラスの相乗効果を期待した。

### (2) 対象、人数、期間、会場、講師

対象：研修委員及び学部学生等

人数：研修委員 46名、学部学生等 延べ105名

日時：※実施日時等については資料3、4参照

会場：宮城教育大学，仙台市教育センター，仙台市立小中学校

講師：宮城教育大学教授等及び教育委員会指導主事（資料1参照）

### (3) 研修項目の配置の考え方

「学習論・実態分析に関する理論研修」の研修結果を受け、児童生徒の苦手とする学習内容をどの様に指導するか、指導改善の提案を行うために、指導案検討、プレ授業、提案授業をその研修の中核とした「授業力向上に関する実践研修」を行った。さらに、その研修の過程で「学部学生等を対象とした指導研修」を行った。この研修は、先の指導案検討、プレ授業、提案授業の研修内容や協議の内容を学部学生等にも研修委員が分かり易く説明するという内容で、協議内容を咀嚼し、今



までいただいていた研修委員各自の教育観，指導観を深く内省する機会とした。最後に，実践研修の一環として先進校研修を行い，広く授業改善の知見を得た。

(4) 各研修項目の内容，実施形態（講義・演習・協議等），時間数

研修項目	時間数	目的	内容，形態，使用教材，進め方等
実践研修	60分 ～90分×4 ～5回	提案授業の指導案検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案授業の指導案作成及びプレ授業</li> <li>・演習，協議形式</li> <li>・提案授業の指導案等の資料</li> <li>・講師：大学教員及び指導主事</li> </ul>
実践研修	120分	提案授業と事後検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案授業及び事後の合評会</li> <li>・演習，協議形式</li> <li>・提案授業記録等の資料</li> <li>・講師：大学教員及び指導主事</li> </ul>
指導研修	前述の実践研修と同時実施	実践研修の内容を学部学生等へ説明し研修委員各自の内省を深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討，提案授業及び事後の合評会の内容説明</li> <li>・説明後に質疑応答</li> <li>・担当：研修委員</li> </ul>
実践研修	各1日	先進研究校の実践に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進研究校の現地研修</li> <li>研修委員を2グループに分け研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>①静岡大学教育学部附属静岡中学校</li> <li>②新潟市立上所小学校・女池小学校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥屋野中学校</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・提案授業参観，協議及び質疑応答</li> </ul>

※各教科ごとの「実践研修」「指導研修」の実施実績は資料3，4参照

(5) 実施上の留意点

「実践研修」「指導研修」であることから，教育委員会指導主事が中心となり，本学教授及び准教授との協同のもとで研修を進めるにあたりそれぞれが教科ごとに，指導案検討，プレ授業，提案授業を媒介としながら「理論研修」で明らかにされた児童生徒の苦手な学習内容克服という一点で協同して研修に取り組んだ。ねらいの共有と素材，題材を媒介とした協議ができるよう工夫することが必要である。

### (6) 研修の評価方法，評価結果

提案授業の実践とその指導案をまとめた指導案集を成果物とした。さらに「実践研修」「指導研修」に参加した研修委員と学部学生等に聴き取り及びアンケート調査を行った。

まず，学部学生等は「現場の先生方が真摯に真剣に授業に取り組んでいることが分かった」「検討会の先生方との意見交換が子どもたちの実態を踏まえての意見交換であった」「先生方で学び合うという研修が行われていることに驚いた」「教員は自ら学び続けることが必要だと思った」などの感想や意見を寄せた。また，研修委員からは，「教育現場の次代を担うかもしれない学生の前での話し合いに緊張した」

「最初は，学生が参加することに疑問や煩わしさを感じたが，実際は自分自身の今までの実践を深く内省することができた」などの反応があり，研修の所期のねらいに迫ることができたと考えられる。

### (7) 課題

学部学生等が教育現場に出向いて実際の授業を参観するためには，提案授業等が仙台市内の市立小中学校で行われること，また，実施時間が大学及び教育委員会やそれぞれの学校の予定や都合により一律ではないことなど，場所や時間の調整などが今回の様な取組を長く続かせるためには最も重要な点ではないか，という結論に至った。学部学生等の輸送手段や学生への広報及び指示について一定の手順を事前にまとめておく必要がある。

## 3. 「教育フォーラム in 仙台」の開催

宮城教育大学と仙台市教育委員会が協同で開発している教員研修モデルカリキュラムの経過と成果を世に問うため「教育フォーラム in 仙台」を開催した。

その概要は次の通り。

日時 平成22年2月7日（日） 午前9時40分～午後12時

場所 仙台国際センター

対象 保護者，教育関係者，学生，大学関係者，その他

内容

〈プログラム〉 (敬称略)

開会のあいさつ	宮城教育大学	学長	高橋	孝助
	仙台市教育委員会	教育長	荒井	崇

仙台市の学力向上に向けての取組「確かな学力育成プラン」の実践  
仙台市教育局学校教育部確かな学力育成室

主幹 成田 忠雄

「確かな学力研修委員会」の取組

宮城教育大学

教授 板垣 信哉

准教授 齋藤 嘉則

学部学生 小川 奈月

学部学生 山田 楓子

確かな学力と言語活動 ―ことばのカー 歌人 俵 万智に聞く

歌人 俵 万智 さん

閉会のあいさつ 宮城教育大学

副学長 阿部 芳吉

参加者は、保護者を中心に約400名が参加し、事後のアンケート調査の結果からは、今回の教員研修モデルカリキュラム開発の部分の説明した所で、特に、アンケートには、『「確かな学力研修委員会」の取組』の説明で、学部学生が教育現場に出る前に授業の実際に触れ学ぶことに共感や期待をもったコメントを多数いただいた。しかし、モデルカリキュラム開発全体の内容については、一般の方々には専門的すぎたので、説明にもう一工夫必要ではないかとのご意見をいただいた。今後、説明の仕方や資料の内容等について改善、検討したい。

### Ⅲ 連携による研修の考察

#### 1. 連携を推進・維持するための要点

本取組は、宮城教育大学、仙台市教育局の連携により実施した。仙台市教育局とは、平成14年に「連携協力に関する覚書」を取り交わし、それ以後、強固な連携関係を基盤としながら様々な具体の事業を実施し着実な実績を積み重ねてきたところである。今回の取組は教育委員会が主体の教員研修と教員養成大学主体の教員養成とを有機的に組み合わせたものであり、今後大学のカリキュラム内容の見直しをも視野に入れた先導的な取組で、今回も本学と仙台市教育局とともに密接な協議を行いモデルカリキュラム開発を進めてきたところである。

本学の連携体制は、教育委員会と大学教員個別の協力や参加という形態ではなく、連携担当理事（副学長）を中心に大学全体で連携を推進させる組織を既に整えていること、それを中核としながら各人の意識や意欲が十分に備

わっての連携事業であることなどがその特徴である。

そのためには、かねがね連携事業を通して教育委員会に教員研修や指導改善等で種々の成果を得るところがあること、本学にとっても教員養成という視点から得るところがあることなどが、連携担当理事（副学長）を中心とした組織的な事業展開を可能としている。

つまり、今回のモデルカリキュラム開発においても、教員研修と養成が一体となった教員研修モデルカリキュラムとしての開発を目指したものであり、開発に取り組むこと自体が大学、教育委員会ともに得ること大である。そのことでさらに双方向型の強固な連携協力体制を強化できたものと考えている。この様に、モデルカリキュラム開発の内容を双方の視点から工夫して編成したこと、さらに、そのことで大学側、教育委員会側双方で組織的なバックアップ体制が整いさらに確かなものとなっていることなど、連携、協力の在り方についてもひとつのモデルを示すことができたと自負している。

## 2. 連携により得られる利点

大学にとっては、教育現場の要請と学部学生等に提供する教育内容を近づける視点を得ることができた。教育委員会にとっては、大学の専門性を生かし活用しながら、協議、演習等を中心にした研修を組織することができた。

特に、「授業力向上に関する実践研修」において行われた提案授業のための指導案検討会、プレ授業、提案授業のそれぞれの場面に学部学生等が参加し、現職教員（以後、「研修委員」）間との話し合いに加わった。その後、その場で、当日の話し合いの内容をその研修委員や指導主事から分かり易く説明してもらうことで、教科指導に対する理解が深まるとともに、研修委員にとっては、学部学生等への説明を通して今までの自分の取組を深く内省することができる機会を得ることができた。次代の教育現場を担う学部学生等の参加にある種の緊張感をもって望んでいたことがアンケート等の結果から明らかにされている。

## 3. 今後の課題等

このモデルカリキュラムの実施については、今回の事業成果にとどまることなく、さらに検証改善のうえ継続することと、他の領域へ拡大していくことも視野に入れて実施していくこととしており、今回構築した連携体制は今後も継続させることで合意している。

また、今回の連携は学生の学部教育に関わらせるという点で、大学と教育現場の距離を乗り越えた連携事業を行うことができた。さらに、この成果を還元することについては、仙台市教育委員会のみにとどまることなく、「連携

協力に関する覚書」を取り交わしている宮城県教育委員会，岩沼市教育委員会，気仙沼市教育委員会，登米市教育委員会等と同様の連携事業を展開することも十分に可能であることから，これらの教育委員会との連携を視野に入れて今回の成果を広く還元させていくことを目指したい。

#### IV その他

##### [キーワード]

確かな学力 教員養成 教員研修 授業力向上  
教科指導 学部学生 教職大学院生  
教員研修と教員養成融合一体型研修  
教育委員会 大学

[人数規模] C [21～50名]

[研修日数（回数）] D [11回以上]

##### 【問い合わせ先】

国立大学法人 宮城教育大学  
〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149  
Tel / Fax 022-214-3706 / 214-3342  
e-mail: hit-suda@staff.miyakyo-u.ac.jp  
連携主幹・研究協力室長 須田 仁（すだ ひとし）

---

仙台市教育委員会  
〒980-8671 仙台市青葉区二日町1-1  
参事兼確かな学力育成室室長 庄子 修（しょうじ おさむ）  
Tel / Fax 022-214-0009 / 264-4437  
e-mail: kyo019120@city.sendai.jp

[資料 1]

○教員研修モデルカリキュラム開発推進委員会名簿（敬称略）

	所属・職名	氏名	担当・役割
1	宮城教育大学 学長	高橋 孝助	プログラム全体統括
2	副学長	阿部 芳吉	推進委員会統括
3	教授	相澤 秀夫	国語科研修担当
4	教授	吉田 剛	社会科研修担当
5	教授	田端 輝彦	算数科・数学科研修担当
6	教授	田幡 憲一	理科研修担当
7	教授	板垣 信哉	英語科研修担当
8	教授	本間 明信	調査・分析研修担当
9	准教授	平 真木夫	調査・分析研修担当
10	准教授	齋藤 嘉則	研修企画・運営・評価担当
11	連携主幹	芳賀 茂	事務統括
12	研究協力室長	須田 仁	事務統括補佐
-----			
	仙台市教育委員会 [確かな学力育成室] 等		
13	参事兼室長	庄子 修	推進委員会統括補佐
14	主幹	成田 忠雄	研修企画・運営・評価担当統括
15	主任指導主事	佐藤 淳一	研修企画・運営・評価担当
16	主任指導主事	齋藤 浩一	調査・分析研修担当
17	指導主事	菅原 徹	研修企画・運営・評価担当
18	指導主事	長田 徹	調査・分析研修担当
19	指導主事	熊谷 礼子	英語科研修担当
20	指導主事	坂本 憲昭	調査・分析研修担当
21	指導主事	佐藤 義行	調査・分析研修担当
22	指導主事	石川 一博	調査・分析研修担当
-----			
	仙台市教育センター		
23	所長	熊谷 和彦	推進委員会統括補佐
24	主任指導主事	明石 清二	研修企画・運営・評価担当
25	指導主事	柳沼 宏文	算数科・数学科研修担当
26	指導主事	飯野 正義	理科研修担当
27	指導主事	大河内裕幸	国語科研修担当
28	指導主事	行場 啓悦	英語科研修担当
29	指導主事	佐藤 一浩	算数科・数学科研修担当
30	指導主事	西海枝 恵	理科研修担当
31	指導主事	高橋 和之	社会科研修担当

## [資料2]

### 「新しい学習指導要領における習得・活用・探究の考え方について」(概要)

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教育課程企画室長 神山 弘 氏

○学習指導要領改訂の経緯→昭和33年から6度目 前回まで時間数と学習内容を削減

○新しい学習指導要領改訂の趣旨

- ・知識や技能の習得とそれらを活用し、思考力・判断力・表現力等を育てる。  
※知識、技能の習得と思考力・判断力・表現力等育成のバランスを重視
- ・授業時数を増やした背景
  - (1) つまづきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習
  - (2) 知識、技能を活用する学習(観察・実験やレポート作成、論述など)
- ・思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動例  
→自分の課題等を把握、理解し、資料(体験、情報)を集め、解決の方途(伝え合い、集団討論等)を決め、自分の学習行動を確認しながら、その課題等を解決する過程で思考力・判断力・表現力等を育てるような学習活動。
- ・言語活動の重視:人は言葉で考え判断し表現する (例)理科や数学の補助教材  
→思考の過程(プロセス)を言語化して、対象化するために必要

○子どもが身につけるもの

- ①基礎的・基本的な知識や技能 ②思考力・判断力・表現力などの能力 ③学習意欲

そのための学習活動の類型 → 「習得」・「活用」・「探究」

※「習得」と「探究」をつなげる活用、3類型は截然と分類区別不能

- ・基礎的・基本的な知識や技能の「習得」とその「活用」との関係  
→習得する際には既習事項を活用することもある。活用する過程で知識や技能をさらに深く習得することもある。
- ・学習活動の動的な流れ(一方通行ではない)を意識すること活用する学習活動を充実するために授業時数を増やした。  
※「活用型学力」→どんな力を身につけさせようとするか曖昧にならないように留意

○教科学習と「総合的な学習の時間」の関係

- ・各教科における知識・技能の活用を図る学習活動は、総合的な学習の時間における探究する学習活動につながる基盤

○「活用」と「探究」の関係 → 「課題」と「問題」の違い

※[再度重要]活動の目的(どんな力を身につけさせるか)を明確にする。

[資料3]

確かな学力研修委員会提案授業検討会予定表 (9月16日以降)

校種	教科	回数	月日	時間	場所	
小学校	国語	1	10月8日	15:30	教育センター	
		2	11月9日	15:30	宮城教育大学	
	社会	1	10月9日	15:00	教育センター	
	算数	1	11月19日	15:00	教育センター	
		2	11月25日	15:30	八幡小学校	
		3	12月2日	13:40	住吉台小学校	プレ授業
		4	12月8日	14:25	八幡小学校	
	理科	1	10月30日	16:00	教育センター	
		2	11月20日	16:00	教育センター	
		3	12月8日	14:25	南材木町小学校	プレ授業
	中学校	国語	1	10月6日	16:00	宮城教育大学
2			11月27日	8:50	西多賀中学校	プレ授業
社会		1	10月19日	15:30	教育センター	
		2	11月9日	15:30	教育センター	
		3	11月24日	15:30	教育センター	
数学		1	10月27日	16:00	教育センター	
		2	11月9日	16:00	教育センター	
理科		1	10月5日	14:30	教育センター	
		2	10月20日	15:00	教育センター	
		3	11月4日	13:15	上杉山中学校	プレ授業
英語		1	10月20日	15:00	教育センター	
			11月12日	15:00	宮城教育大学	



[資料4]

# 「仙台市確かな学力研修委員会」提案授業一覧

確かな学力育成室

## <1 小学校 国語 >

	小学校	中学校
期 日	平成21年12月3日(木) 14:15	平成21年12月15日(火) 13:35
会 場	仙台市立榴岡小学校 5年1組	仙台市立西多賀中学校 2年1組
単元名	「目的に応じた伝え方を考えよう」(第5学年)	「考えるイルカ」(第2学年)
授業者	教諭 佐藤 美知子	教諭 大沼 みどり

## <2 中学校 国語 >

## <3 小学校 算数 >

	小学校	中学校
期 日	平成21年12月8日(火) 14:25	平成21年11月24日(火) 13:35
会 場	仙台市八幡小学校 6年2組	仙台市立西山中学校 2年
単元名	「算数のまとめ」(第6学年)	「平行線と角」(第2学年)
授業者	教諭 米澤 みどり	教諭 新妻 英敏

## <4 中学校 数学 >

## <5 小学校 社会 >

	小学校	中学校
期 日	平成21年10月29日(木) 14:00	平成21年12月8日(火) 14:30
会 場	仙台市立立町小学校 6年1組	仙台市立松陵中学校 2年1組
単元名	「世界に歩み出した日本」(第6学年)	「日本がアジアで行った戦争」(2学年)
授業者	教諭 山澤 一郎	教諭 宮内 周

## <6 中学校 社会 >

## <7 小学校 理科 >

	小学校	中学校
期 日	平成21年12月16日(水) 13:35	平成21年11月24日(火) 13:45
会 場	仙台市立東二番丁小学校 理科室	仙台市第一中学校 第2理科室
単元名	「電流のはたらき」(6学年)	「いろいろな力の世界」(第1学年)
授業者	教諭 綿引 達郎	教諭 星 隆一

## <8 中学校 理科 >

## <9 中学校 英語 >

	中学校
期 日	平成21年11月26日(木) 13:45
会 場	仙台市立大沢中学校 2年1組教室
単元名	「Unit6 The Story of Silent Night」(2学年)
授業者	教諭 本多 恵理子